

素晴らしい須走を知りたい！

「すばらしい隊」養成講座 第3回講座概要

第1部：登拝してみよう！五合目で富士講体験

座学 「富士山・富士講」とは

■日時：平成30年10月6日（土）9時20分～10時30分

■場所：須走口五合目 山小屋 菊屋 大広間

■講師：宍野 史生 富士道第十二世 神道扶桑教 管長



■第1回・第2回講座概要(振り返り)

1. 第1回：「富士山と須走を語ろう」

第1部(座学)

－須走と須山の違い。

－須走の集落、登山口の特徴。

第2部(トーク)

－質問表からトーク形式での回答・解説

2. 第2回：「話す・伝える極意」～語れる人になるために～

第1部(座学)

－「おもてなし」と「サービス」の違いについて

－「話す力」「伝える力」について

第2部(実践)

－発声、姿勢の実践練習

－「和顔愛語」 和顔=やさしげな顔付き、愛語=親愛の気持ちがこもった言葉の使い方

■講義概要

1. 富士講とは

－江戸富士講のお山開きは、元亀3年6月3日に富士道の開祖 藤原角行様が初めて御頂上に発たれた日を開山日としている。

- －8月26日は信仰の山としての山じまい（閉山祭、御山納め）。旧暦7月26日（新暦8月26日）の吉田口（北口）浅間神社の諏訪神社祭礼「吉田の火祭り」をもって信仰の登山が終わる。
- －角行様が80歳で神様の力を宿らせ謹製された五寸の御鏡＝御神寶（みかむぎね）を7月16日～18日に背負って北口八合目の天拝宮（日本武尊御聖跡鳥帽子岩、富士道中興元祖食行身禄御入定靈場）に奉安し登拝する富士講の講員や一般に登山をする方々を迎える。8月25日には、背負って下りて26日のお山じまいを迎える。
- －白装束は死装束などという人もいるが、これは間違い。神様の前に伺う、神様の御体に受け入れてもらうために「純白無垢な姿で」という事で白である。鈴はお山のいたる所で拝みをあげるときに使う。さらにクマ除けと遭難した際、自分の位置を知らせることができる。昔の人が考えた危機管理用道具である。
- －昔は裸足に草鞋、今は地下足袋。北口三合目の中宮役所では御師のところで事前に支払った入山料の証明書を見せる。さらに役人は男女の確認を行った。女性は三合目の女人頂上まで登拝ができた。
- －そこからは新しい草鞋に履き替えた。お山に登ることは神様の御体を踏ませていただくということだ。履き替えた古い草鞋は馬返しへ降ろし、刻んで馬のエサにした。また、草鞋を履き替えることは、土や種、菌を持ち込まないので、結果的に高山植物の植生保護になっていた。
- －登拝＝「わが身を委ねて大自然の中に納め、人間の小ささを体感し、神仏や大自然に畏敬の念をもつ」という概念である。
- －7人に1人の強力を頼んだ。強力は7人分の替えの草鞋とお弁当、搔い巻きを持って登った。
- ＜映像を見ながら＞
- －例年7月15日または16日御山発ち。お供の供奉員がついて神様（御神寶）が御山に登る行事
- －御師の大國屋 田辺家に一泊する。
- －「六根清淨 懺悔懺悔 御山晴天…」掛け念丈を掛けながら登る。声を出して上がっていると常に深い呼吸することになり、高山病になりにくい。
- －掛け念丈には2種類ある。東京：江戸前、木遣り系。神奈川、川崎：お念佛系。
- －掛け念丈を掛けながら、半歩ずつ上がっていくと、気が付いたらお頂上が近づいて来てくれる。
- －3250m、八合目のお宮、天拝宮で天拝式を行う。角行様謹製の御神寶を頭上に頂くという秘儀神事
- －ご来光は九合五勺の旧水小屋より下で迎える。頂上では太陽が目通りより下から上がる所以迎えない。
- －御神名＝神様の名前を唱えながら拝む。「たかまのかむろ かむろぎかむろみ くしきみたまを さきはへたまへ」江戸富士講の自宅の神棚。角行様が神様から授かったお唱え言葉・御新語「こう くうたいそく みようおうそくたい じゅっぽう こうくうしん」が書いてあるお軸を背負って、頂上で御息（風）を受けて、新しい息吹（風）がかかったお軸（おみぬき）を持ち帰り講社の神殿に掛ける。
- －江戸時代、女性は登れなかった。女性、お年寄り、子供等、登れない人の御祈願を持って登り、代わりに祈る使命をおう。代参という。
- －御新語「こうくう（吐く息、吸う=ブレス） たいそく（どうぞ神様私たちのお息を吸い上げて下さい） みようおうそくたい（神様の御息を私たちに下さい。その息を交換させて頂く事によって神様と私は神人一体になることが叶います） じゅっぽう こうくうしん（神人一体となった徳力はあらゆる方向へ広がっていきます）」
- －「心富士」先達の伝統書法。心の字で富士山を描く。代々の先達の特徴がある。

<資料>

- －富士山の登山者数の推移
- －「ぐるり富士山風景街道一周清掃実行委員会」による美化活動の状況

第2部：体験編 登拝してみよう！五合目で富士講体験

■日 時：平成 30 年 10 月 6 日（土）10 時 40 分～11 時 40 分

■場 所：須走口五合目、小富士

■講 師：宍野 史生 富士道第十二世 神道扶桑教 管長

脇先達：秋元 瑞穂 割菱八行講 講長



■体験概要

五合目～古御嶽神社参拝～小富士

「六根清淨 御山晴天」と唱えながら歩いた

○古御嶽神社にて

一二礼。（御山に入ると）三拍手。祈祷、一礼。四拍手、一礼。

一一歩ずつ、きつくなったら半歩ずつ、ペースを整えながら登る。人生平常で「日々是無事なり」こそ幸福。こういう体験をしながら先人からの思いや教えを受け継ぎ、次の世代までつないでいく努力をしていきたいと思う。



— 「六根清浄」の六根は五感の「聞こえる、匂う、味わう、見える、触る」と「心、(想い)」を加えた六感。人の持つ知覚と認識である。

—自分たちの存在すべてを清らかにしてください、と何万回も唱えながらお頂上に上る。願って願って願って願い重なったものが、祈りに繋がる。